

福祉大国スウェーデン——。日本人なら信じて疑わなかったこの定説が、激しく揺らいでいる。

昔はともあれ、北欧をはじめ、世界中の国々が「日本こそ世界一の福祉大国」という認識なのだ。

今月1日までの5日間、チェコの首都プラハで開催された第11回IFA（国際高齢者連盟）国際会議に出席した全国介護者支援協議会の上原喜光理事長がこう言う。

「会議には世界60カ国以上の人が集まりましたが、〈日本の高齢者制度をぜひ教えてくれ。〉と質問攻めに遭いました。日本の国会議員は夏になるとスウェーデンへ視察に行きますが、実は欧州諸国は逆に日本へ視察に



スウェーデンが参考に する日本の高齢者福祉

やってきている。日本のマスコミは何かというと〈北欧の福祉を見習え〉という大合唱ですが、どうも話はアベコベです」

日本の介護保険制度はドイツを参考に作られたが、たった10年ではるかに凌駕してしまった。具体的には、日本ならどんな田舎にもある「デイサービス」（日帰り入所施設）、どんな時間でも対応する「24時間訪問介護」に世界が驚いている。

また、特養、有料老人ホーム、老健施設、高専賃と高齢者の体調や状態に応じて施設がかわる国は、世界中を探しても日本ぐらいしかない。

「日本流がスウェーデンに合うかは別にして、少なくとも中国は5年以内に日本の介護制度をそっくり真似する予定です。欧米にはボランティアはいますが、基本的に日本のような介護ヘルパーはいません。イギリスのレスパイトケア（在宅介護）は、お金を補助する代わりに、後は自己責任という考え方。日本人なら当たり前の困った者同士が助け合う「共助」。「きずな」という考え方も、欧米には希薄です」（上原理事長＝前出）

日本がダントツの福祉先進国であることは間違いがない。